



特定非営利活動法人
国際ボランティア学生協会 (IVUSA)
International Volunteer University Student Association

2012 年度年次報告書

Annual Report 2012



ご挨拶

一昨年3月11日に発生した東日本大震災から2年が経過しました。犠牲者は2万人を超え、残された遺族や被災者は、取り返しの付かないものを失い、今も苦しんでいます。

2013年も、気仙沼の東日本大震災追悼式の準備に学生120名が参加し、式典にも参列しました。式の中で遺族代表が読み上げた追悼文の中で、「震災以前の生活が、忘れたくても、忘れられない」という言葉が、心に刺さり、失ったものの大きさと現状の厳しさを痛感しました。

本協会は災害発生からこれまで、31回延べ2,800名の学生・卒業生らが現地で復旧活動を行ってきました。泥だらけになって瓦礫を運ぶ若者の姿を見た被災者からは、「生きる希望をもらった」という多くの声を聞かせて頂きましたが、時間の経過とともに、現状はより厳しいものとなっているようです。

私たちは、電気もガスも水道もない、開発途上国にボランティアに行くことがあります。ここでは、物質的には東北の被災者よりも厳しい生活を送る多くの人たちがいます。人々は困難を乗り越えるために「共に生きる社会」を形成していますが、これは共に助け合わなければ生きていけない現実があるのでしょうか。それにしても、ここには子どもを中心とした未来があり、希望があり、そして笑顔が溢れています。改めて、人間が生きるということには、希望が必要であることを痛感しています。

それにしても、昨年度は、尖閣諸島の問題で中国での植林活動を中止。さらに、バングラデシュにおける環境美化活動も、ダッカ市内で大規模なデモが発生し、出発1週間前に中止するという事態となりました。日本も世界も、混迷を深めているようですが、こんな時だからこそ、若者の純粹さと柔軟な発想をもって、希望の光を生み出し、課題解決に向かっていかなければならないのだろうと思っています。

前述の追悼式に参加したある学生の所感に、「被災者は、悲しい過去を忘れることはできない。そしてそれを癒す力は僕にはない。ただ、そんな過去を少しでも忘れてもらうために、今、ここに来た。出会う人には、笑顔で挨拶し、笑顔で話し、そして笑顔で作業を行った。僕の出来る最高の「今」を届けるために…」と書かれていました。若者の、この情熱が何かを変えると信じています。

「熱意は人を動かし、社会を動かす」

皆様方の一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会 (IVUSA)

代表理事 下村 誠



2012年度の事業の概要

- 合計158の事業を行い、延べ6,557人が参加しました。
- これまで継続してきた事業に加え、新たに宮城県山元町での災害復興活動や被災地へのスクールカウンセラー派遣事業（文部科学省委託事業）、三重県熊野市での地域活性化事業、コミュニティFM向けラジオ番組を開始しました。
- 会員数が登録ベースで2,000人を突破し、各大学クラブの地域における活動も活発になってきています。
- 会員に対する研修事業に力を注ぎ、プログラムを整理し、体系化しました。
- IVUSA創設20周年であり、11月に記念イベントを実施し、小泉純一郎元総理に基調講演をしていただきました。
- 現地の政情不安のため、中国やバングラデシュでの活動を中止せざるを得なくなりました。



Contents

1.国際協力	…P.3
2.環境保護	…P.4
3.地域活性化	…P.8
4.災害救援	…P.12
5.その他の事業	…P.16
6.研修	…P.20
7.2012年度組織図・クラブ	…P.21
8.2012年度収支決算	…P.24

1. 国際協力

今年度は、現地の政情不安のため、中国・バングラデシュで予定していた活動を中止し、カンボジアの小学校建設活動のみ実施しました。また、引き続きカンボジアへの日本語教育のインターンを定期的に派遣しています。

第5次カンボジア学校建設活動

【日時】2012年8月17日～29日

【場所】カンボジア王国コンボンチャム州

【活動内容】カンボジア現地での日本人大学生・カンボジア人大学生による共同学校建設ボランティア活動、子どもとの交流会、落成式など

【参加人数】70名（日本人学生59名、カンボジア学11名）、募金参加人数200名

【成果】

- ・4教室の小学校を建設
- ・カンボジアの内務大臣から、感謝状を頂いた。
- ・校長先生からは今後も継続的に来てほしい。日本の教育方法を教えてほしいという言葉を受戴した

・募金総額456,383円

【課題・今後の方向性】

- ・近年定着してきたカンボジア学生の活動参加を活かし、より深い相互理解のためにもカンボジア学生と日本人学生での共同プロジェクトの開催目指したい。
- ・教育という枠組でみると、学校建設以外にもすべきことは多々ある。ただ、この活動を学校建設に特化させるのであれば(学校建設の必要性は依然高い)、今後は街頭募金活動以外の、より多様な建設費用の調達方法を検討する必要がある。

【協力・協賛】KHJ Construction Co.ltd、株式会社アーテック、北星鉛筆株式会社、井関食品株式会社、株式会社サンファミリー、株式会社ビッグウィング、株式会社ウエ・ルコ、街頭募金協力者約28,000名（順不同、敬称略）

カンボジアへのインターン派遣事業

【日時】2012年4月～2013年3月

【場所】カンボジア王国

【活動内容】協力団体であるKHJ Construction Co.ltdが運営する学校における日本語教師インターンシップ、周辺の農村でのホームステイ等

【参加人数】9名

【成果】活動に参加した人たちに、カンボジアの教育事情を知る機会を持ってもらった。

【課題・今後の方向性】今後も、年間を通じて活動参加者を増加していきたい。

【協力・協賛】KHJ Construction Co.ltd



2. 環境保護

千葉県九十九里浜全域清掃大作戦や熊本県天草市海岸美化活動などの大規模な活動だけでなく、里山保全や竹林整備、琵琶湖清掃、淀川清掃など地域に密着した定期的な活動も定着してきました。今後は、子どもの環境教育や地域活性化に繋がるような取り組みをしていきます。一方、多摩川清掃大作戦は雨天のため中止になりました。

第11回九十九里浜全域清掃大作戦

【日時】2012年8月30日～9月2日

【場所】千葉県九十九里浜海岸全域

【参加者数】清掃活動：401名（IVUSA会員292名、地元の子ども109名）

【活動内容】九十九里浜海岸全域の清掃、流入する河川の清掃、地元住民と清掃参加者の大交流会

【成果】・ゴミ回収 1,008袋（2t）

・地元の子どもたちの参加が、昨年度約50名の参加であったが、本年度は二倍の109名となった。

・地元学童団体と、月1回程度の会合を開催し、子どもたちを含め地元の意見を反映することが出来た。

・子どもたちに対する環境学習と、郷土愛の醸成の一助となった。

【課題・今後の方向性】・地域住民、学童団体との連携を深め、子どもたちに対する環境学習と郷土愛の醸成をはかる。

・行政との連携を深め、広域連携を強化する。

【協力・協賛】（敬称略・順不同）

・助成：財団法人千葉県環境財団

・実施許可、ゴミの回収、ゴミ袋の提供：千葉県旭市、匝瑳市、横芝光町、山武市、九十九里町、大網白里町、白子町、一宮町、長生村、いすみ市

・協賛：赤穂化成株式会社、株式会社健康体力研究所、株式会社マンナンライフ、カルピス株式会社、サッポロ飲料株式会社、三立製菓株式会社、相日防災株式会社、日本たばこ産業株式会社、山芳製菓株式会社、ライオン菓子株式会社

・活動協力：千葉県白子町（宿泊所提供、開会式・交流会実施協力等）、株式会社オンザウェイ（無線機無償貸与）、大里綜合管理株式会社（企画サポート、車両貸与）、株式会社毎日コムネット（宿泊場所手配、移動手手段手配）、ホテルカネイグループ（宿泊場所）、加藤光男（企画サポート）



第6回熊本県天草市海岸美化活動

【日時】2012年8月9日～13日

【場所】熊本県天草市牛深

【参加者数】計206名（地元学生・住民 51名を含む）

【活動内容】海岸に漂着した流木・ゴミの清掃、牛深支所周辺の環境整備、交流会



【成果】・本活動1ヶ月前に発生した7月九州北部豪雨により、例年より多くの流木が漂着していたが、活動地域においてはこれらを撤去完了。

・周辺住民に直接交流会告知のチラシを渡し招待することにより、地域住民約50名の方を招待することができた

・より、ニーズに即した活動を実施していくため、海岸美化活動だけでは知ることができない天草・牛深の魅力や、流木問題以外の天草の現状について知るための勉強会を開いていただくことができた

・流木の炭化実験、流木を利用したモニュメント製作・クラフトワークの実施を通して、学生が回収した流木の再利用方法を模索。実用化に向けては課題が残る結果となったが、流木再利用に向けて一歩を踏み出すことができた

【課題・今後の方向性】流木の再利用方法の開発、近年大きな問題となっている磯焼けや赤潮に対してできることを模索、実現を含め、より天草市牛深のためになる活動を展開していきたい。

【協力・協賛】（順不同、敬称略）

・共催:天草市牛深支所

・協力団体:天草海上保安署、牛深ロータリークラブ、天草漁業協同組合・牛深総合支所、熊本県海水養殖業協同組合、牛深地区養殖業協議会、牛深地区婦人会連絡協議会、天草市教育委員会、牛深町茂串区、牛深町須口区、海守牛深会、天草宝島観光協会、あまくさ農業協同組合・牛深統括支所、久玉町婦人会、二浦町婦人会、肥後真狗舞

・協賛:南九州コカ・コーラボトリング株式会社、井関食品株式会社、株式会社伏見上野旭昇堂、株式会社ビックウイング、株式会社サンファミリー、株式会社ウエ・ルコ、有限会社松坂屋、片山ファーム

里山保全活動

【日時】4月15日、5月20日、6月17日、7月8日、9月14日、9月23日、10月21日、11月18日、1月20日、2月24日（計10回）

【場所】滋賀県東近江市愛東地区

【参加人数】計472人

【活動内容】里山の整備、農家のお手伝い、地域住民との交流会の実施

【成果】・東近江市愛東地区の指定整備区域（50m×50m・）の9割の整備が達成出来た。この整備とは、草刈り、間伐、倒木の撤去などが完了した状態である。

・農業の担い手がない農家（15軒）に、学生の力で援農することが出来た。

・NPO法人愛のまちエコ倶楽部のスタッフや地域の方々から、里山保全の必要性を参加する学生が理解する機会を提供出来た

【課題・今後の方向性】・学生が主体となって、指定整備区域の有効活用を検討することで、継続する

ためのソーシャルビジネスの開発が必要である。

【協力・協賛】連携：NPO法人愛のまちエコ倶楽部



竹林整備活動

【日時】5月12日、6月9日、6月23日、7月8日、7月22日、10月13日、11月18日、12月2日、1月20日、2月25日～2月26日

【場所】神奈川県横浜市青葉区「児童厚生施設こどもの国」

【活動内容】こどもの国内の竹林の整備、園内景観の改善

【参加人数】240人

【成果】・昨年度の課題であった、月1回程度の活動を継続して行なうことが出来た。

・継続して活動を行うことで、昨年度に比べ大幅な参加人数の増員を行えた。

【課題・今後の方向性】・今年度も、月1回を目途に継続した活動を行う。

・また、こどもの国を利用する方々にも、活動を知ってもらえるよう広報活動を行いたい。

【協力・協賛】児童厚生施設こどもの国



YURUSOU（ゆる～い清掃キャンペーン）

【日時】2012年6月1日～6月30日、2012年11月1日～11月30日

【場所】東京、和歌山、埼玉、長崎、神奈川、京都、大阪、茨城、滋賀、静岡等国内74箇所

【内容】構えず軽い気持ちから清掃に取り組むことを促すキャンペーン

【人数】延べ1,356名

【成果】昨年度に比べて参加件数と投稿件数が倍増しており、楽しんで投稿してもらえるようになった。徐々にではあるがこのキャンペーンが習慣化されて、参加者数の拡がりが出てきている。

【協力・協賛】なし

【課題・今後の方向性】より多くの参加を促す巻き込み方法や、口コミなどでも拡がるために、さらに楽しんで盛り上げていくための仕掛け作り



第2回淀川清掃

【日時】2012年6月24日

【場所】大阪府淀川河川公園三島江野草地区、出口地区

【参加者数】137名（一般参加者48名）

【活動内容】・三島江野草地区での沿路の草刈り、ワンド沿いの草刈り

・出口地区での不法投棄のごみ処理

・勉強会では、独自に調べた淀川の知識の他に、淀川河川レンジャーの酒井信行さん（高槻出張所管内）をお呼びし、淀川の歴史や、現在の問題点などをレクチャーしていただいた。

・交流会では大阪工業大学の綾史郎先生に、淀川にある外来種等の植物や生き物についてレクチャーしていただいた他に、寝屋川市立第七中学校の生徒さんに、研究発表をしていただいた。



【成果】・ごみ袋137袋分の草、371袋分のごみを除去

・大阪日日新聞に記事が掲載

【課題・今後の方向性】三島江地区（高槻市）だけでなく、幅広い地域での繋がりを作り、住民参加の促進させ琵琶湖水系の広い範囲を見据え活動を継続させる。

【協力団体】淀川河川レンジャー

第9回ラブリバーたまがわこども絵画展

【日時】展示期間：2012年11月5日（月）から11月23日（金・祝）

表彰式：2012年11月23日（金・祝）

【場所】展示場所：世田谷区二子玉川玉川高島屋ショッピングセンター246地下連絡通路

表彰式：東神開発株式会社会議室

【参加者数】13小学校172点の作品が応募

【活動内容】「子どもたちがもっと自分たちに身近な多摩川を知り、親しんでもらい多摩川がきれいになることを願う心を養う。そして、子どもたちがいつまでも多摩川を愛し次の世代にまで多摩川を愛する心を受け継ぐことのきっかけとする」ことを目的に行われたこども絵画展。世田谷区、川崎市の多摩川流域の小学校に案内を送り応募を募り、最優秀賞から入賞まで、全作品を期間中展示し全員に自分の描いた絵が画像として取り込まれたオリジナルの表彰状を授与する。

【成果】例年協力いただいている小学校以外に対しても、夏休みの宿題以外でも学校内に告知し個人での応募も勧めたことで、昨年に比べ応募校が7校増えた。多摩川に親しむ心を養うという目的を広めていくことでも多摩川流域の全校に応募協力のポスター展示やビラ配布が行えた。

【課題・今後の方向性】表彰式を多摩川河川敷で予定していたが雨により東神開発株式会社の会議室に変更となったため、手狭で何度も分けて授与式を行うなど混乱をきたした。今後は天気などの関係もあり元から広い会場で表彰式を行うなどしたほうがよいという声があった。

【主催】ラブリバーたまがわこども絵画展実行委員会（ラブリバー多摩川を愛する会、特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会）

実行委員長：神谷明（声優） 審査委員長：海津ヨシノリ（多摩美術大学）

【後援】世田谷区、世田谷区教育委員会、川崎市教育委員会、国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所、玉川高島屋S.C、株式会社高島屋玉川店、東神開発株式会社

【協力・協賛】・協力小学校：世田谷区立砧南小学校、玉川小学校、等々力小学校、二子玉川小学校、桜町小学校、若林小学校、東深沢小学校、玉提小学校、奥沢小学校、川崎市立稲田小学校、久地小学校、宿河原小学校、大田区立多摩川小学校



3. 地域活性化

新潟県での活動に加え、2011年9月の台風12号災害の救援活動がきっかけとなり、三重県熊野市を中心とする東紀州地域でも活動が始まりました。

新潟県関川村「大したもん蛇まつり2012」

活性化活動

【日時】2012年8月24日～27日

【場所】新潟県岩船郡関川村

【参加者数】計126名

【活動内容】「せきかわ大したもん蛇まつり」の運営補助、村内整備などの村のニーズに即したお手伝い、村民との交流

【成果】これまでの9年の活動の中で培ってきた住民との絆から、過去最多の約110名の村民が交流会に参加。これまでで一番多くの村の方々と交流を深めることができ、学生はそれに学び、村民の方々には元気を置いてくることができた。

【課題・今後の方向性】子どもたちを巻き込んだプログラムを増やすことで、村の未来を担う世代を巻き込んでいきたい

【協力・協賛】関川村役場、関川村IVUSAサポーターズチーム



新潟県関川村「おおいしどもんこまつり」

活性化活動

【日時】2013年2月8日～10日

【場所】新潟県岩船郡関川村

【参加者数】計53名

【活動内容】まつりの準備、まつりの運営補助

【成果】まつり会場内に設置した当協会ブースにて、身体が暖まる飲み物を配布することで、まつりに遊びにきた方々の雪遊びを応援することができた。

【課題・今後の方向性】子どもたちを巻き込んだプログラムを増やしていくことにより、村の未来を担う世代を巻き込んでいきたい。また、関川村を活性化させるためのビジネスモデルの創出を目指す。

【協力・協賛】おおいし・山と川に親しむ会、関川村役場、関川村IVUSAサポーターズチーム



新潟県関川村「七ヶ谷ゆきほたるまつり」

活性化活動

【日時】2013年2月9日～11日

【場所】新潟県岩船郡関川村

【参加者】計49名

【活動内容】まつりの準備、運営補助、前年度企画されたビジネスプランの現地調査および試験実施

【成果】日常となっている雪を更に楽しめる遊び場を子どもたちに提供することにより、新たな魅力を伝えることができた。

【課題・今後の方向性】子どもたちを巻き込んだプログラムを増やしていくことにより、村の未来を担う世代を巻き込んでいきたい。また、関川村を活性化させるためのビジネスモデルの創出を目指す。

【協力・協賛】たらんぺくらぶ、関川村役場、関川村IVUSAサポーターズチーム



新潟県十日町市雪まつり活性化活動

【日時】2013年2月8日～10日

【場所】新潟県岩船郡関川村

【参加者数】計53名

【活動内容】まつりの準備、まつりの運営補助

【成果】まつり会場内に設置した当協会ブースにて、身体が暖まる飲み物を配布することで、まつりに遊びにきた方々の雪遊びを応援することができた。

【課題・今後の方向性】子どもたちを巻き込んだプログラムを増やしていくことにより、村の未来を担う世代を巻き込んでいきたい。また、関川村を活性化させるためのビジネスモデルの創出を目指す。

【協力・協賛】おいしい・山と川に親しむ会、関川村役場、関川村IVUSAサポーターズチーム



新潟県十日町市「雪原カーニバルなかさと」

活性化活動

【日時】2013年3月8日～3月10日

【場所】新潟県十日町市清津スキー場

【参加者数】155名

【活動内容】雪原カーニバルなかさとの運営補助



【成果】十日町市(旧中里村)出身の当時の学生が「IVUSAの仲間とともに地元を盛り上げたい」という思いから始まった。

- ・キャンドル約3万本の設置、点灯、回収
- ・5つの雪像等を作成
- ・地元住民を含めた200名以上の交流会を開催
- ・地元商工会青年部など、新たなつながりが生まれた

【課題・今後の方向性】・地元住民との繋がりがより広がり、強くなってきたため、交流を深めながら、企画段階からより参画できるようにしていく。

・当協会のみでなく、活動の際に地元住民をより巻き込み、共に活動を実施していく。

【協力・協賛】（敬称略・順不同）

十日町市役所、雪原カーニバル実行委員会、ミオンなかさと、中里商工会青年部、元気印応援隊R



新潟県長岡市栃尾地区ふるさとづくり活動

【日時】2012年4月～2013年3月まで全17回

- 第1回 4月13日～15日
- 第2回 5月2日～5日
- 第3回 5月25日～27日
- 第4回 6月8日～10日
- 第5回 6月22日～24日
- 第6回 7月13日～15日
- 第7回 8月1日～4日
- 第8回 8月24日～27日
- 第9回 9月7日～10日
- 第10回 9月21日～9月23日
- 第11回 10月12日～10月14日
- 第12回 10月26日～10月28日
- 第13回 11月2日～4日
- 第14回 11月16日～18日
- 第15回 1月25日～27日
- 第16回 2月8日～10日
- 第17回 3月9日～11日

【場所】新潟県長岡市栃尾地域

【活動内容】耕作放棄地の開墾、古民家修復、児童養護施設の子どもたちとの交流、祭り手伝い、地域住民との交流会

【参加人数】合計731名

【成果】・目的とする交流人口の増加に対し、昨年度に比べ約150人の参加者の増員が出来た。

・新たに活動のホームページを作成し、対外的な広報活動を行った。

【課題・今後の方向性】自分たちだけで活動を完結することなく、地域のNPO法人、児童養護施設、青年会議所など、私たちが活動する場所で暮らしている人たちとの接点を増やし、より多くの方々に活動を知ってもらうとともに、その人たちにとっても有意義な活動としていきたい。

【協力・協賛】（順不同・敬称略）

栃尾同住会、NPO法人UNE、非営利活動法人復興支援ネットワーク・フェニックス、長岡市栃尾地域半蔵金地区、長岡市栃尾地域栃掘地区、長岡市栃尾地域下来伝地区





三重県熊野市活性化活動

【日時】2012年4月～2013年3月までの全4回
 (6月16日～17日、8月13日～18日、1月12日～13日、3月2日～3日)

【場所】三重県熊野市

【活動内容】梅の収穫・梅まつり運営、熊野市花火大会運営サポート、耕作放棄地開墾、防災キャンプ事前調査

【参加者】合計59名

【成果】・三重県の南部に位置する熊野市は2011年9月に発生した台風12号の被害に対して災害救援をきっかけに熊野市で活動することにになった。現在は、熊野市や熊野市周辺で活動される関係団体などたくさんの関係団体と協業することにより、ネットワークの構築が可能になった。

・梅の収穫においては、収穫の担い手が不足していることに対して、サポートすることが出来た。

・300年の伝統を誇る熊野市花火大会では、担い手が高齢化し不足しており、学生の力で花火大会の運営を円滑にすることが出来た。

【課題】熊野市をはじめ東紀州地域で地域活性化を応援出来るように、ネットワークや関係団体との協業に関して検討する必要がある。

【協力・協賛】(敬称略・順不同)

熊野市、熊野市観光協会、一般社団法人熊野レストレーション、アクティブファーマーズ、NPO法人子どもステーションくまの



4. 災害救援

2011年に起きた東日本大震災の復興支援活動を継続するとともに、九州や京都での豪雨災害の救援活動も実施した。

つくば市竜巻災害救援活動（平成24年5月に発生した突風等による被害の救援活動）

【日時】2012年5月8日（火）～13日（日）

【場所】茨城県つくば市、栃木県真岡市

【状況】北関東の上空に、氷点下21度以下の強い寒気が流れ込み、津軽海峡付近に停滞した低気圧による暖かく湿った空気が流れ込んだ影響により、東海地方から東北地方にかけて大気の状態が非常に不安定となり、落雷や突風、降ひょうを伴う発達した積乱雲が発生。茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県を中心に、竜巻が発生し家屋被害が生じた。

このような状況で、最も被害の大きかった茨城県つくば市を中心に活動を行った。

【参加者数】74名

【活動内容】被災家屋における瓦礫の撤去、倒木した木の除去等。

【成果】12軒の被災家屋で、活動を行った。竜巻災害は通り道になった家屋だけが大きな被害を受け、隣家は無傷という状況が多く、生活再開に向けた雨漏り対策の瓦屋根の養生や、隣家に倒れこんだ倒木の除去など、応急的な活動が大変喜ばれた。また、マンパワーを必要とする現場なため多くの学生の力が生きた活動となった。

メディア掲載：朝日新聞 5月14 日朝刊

毎日新聞 5月14 日朝刊

読売新聞 5月12日夕刊

【課題・今後の方向性】竜巻災害は発災後ただちに復旧活動に移ることができる災害である。したがって、発生の危険が予測された段階で出動準備を行い、発災後ただちに現地に向かうことができる体制を想定しておく必要がある。



平成24年7月豪雨災害救援活動

【日時】2012年7月13日（金）～16日（月）

【場所】大分県中津市

【状況】7月2日（月）から7日（土）にかけて梅雨前線が本州付近に停滞し、この前線に向かって断続的に湿った空気が流れ込み、西日本から北日本の広い範囲で大雨となった。

福岡県と大分県で、死者1名、床上浸水推定3000棟を超える被害が出ている。特に大分県では、床上浸水が日田市で544件、中津市で163件となっている。（気象庁情報：7月10日14:00現在）



【参加者数】28名

【活動内容】被災家屋における土砂の撤去等。

【成果】被災家屋4軒での作業完了。地域内の氏寺である広大な敷地内を氏子の方々総出で泥掻き行った。地域の復旧に向けたシンボルの寺を優先させたことで地域全体に元気を取り戻すことができた。

【課題・今後の方向性】水害でのボランティアの活動は、何よりスピードが求められる。豪雨災害が頻発する九州地区に対する迅速な支援を行うためには距離の課題が残る。

【日時】2012年7月16日（月）、17日（火）～29日（日）

【場所】京都府亀岡市、京都市北区

【状況】京都府南部では、15日未明から発達した線状の雨雲がかかり、解析雨量で15日04時までの1時間に京都市西京区付近および亀岡市付近で約90ミリ、05時までの1時間に京都市北区付近で約90ミリの猛烈な雨となった。

この大雨の影響で、京都市では床上浸水（44棟）、床下浸水（56棟）、山林の一部が崩落した。（15日20時現在：京都市調べ）また、亀岡市では、床上浸水（11棟）、床下浸水（89棟）、住宅損壊（3軒）などの住家被害が発生した。（15日21時現在：京都府調べ）

【参加者数】100名

【活動内容】被災家屋における土砂の撤去等。

【成果】被災家屋20軒、生活用水路等の復旧作業完了。京都周辺の学生たちが授業の合間を縫って継続的な支援活動を行った。

メディア掲載：京都新聞7月19日夕刊

【課題・今後の方向性】水害でのボランティアの活動は、何よりスピードが求められる。会員の居住する近距離で発災した水害の場合、今回のような少数継続派遣という支援方法も検討する。



平成24年8月豪雨災害救援活動

【日時】2012年8月16日（月）～19日（木）、22日（日）、24日（火）～26日（木）、9月2日（木）

【場所】京都府宇治市（兎道門の前、兎道車田、五ヶ庄、北ヶ庄、西川原、木幡）

【状況】2012年8月13日から14日にかけて近畿中部で発生した豪雨は、大阪府で死者1名、京都府で死者・行方不明者2名の被害と、河川の増水と土砂崩れなどの浸水被害が発生、京滋バイパスが斜面崩壊により通行止めとなるなど甚大な被害を発生させた。

【参加人数】145名

【活動内容】被災家屋における土砂の撤去、家財の搬出等。

【成果】被災家屋および側溝28件の復旧作業完了。京都周辺の学生たちによる継続派遣により継続的な支援活動を行った。

【課題・今後の方向性】京都市内での活動同様、会員の居住する近距離で発災した水害の場合、中期的継続派遣という支援方法も検討する。

東日本大震災復旧支援活動

2011年3月11日午後2時46分、三陸沖を震源とする国内観測史上最大のマグニチュード9.0 を記録する巨大地震「東日本大震災」に対して、IVUSAでは発災直後から被災地に対する支援準備を開始し、震災発生5日後の16日には現地入りして、継続的な救援・復興活動を始めました。発災直後から3月中は救援物資の輸送や炊き出し支援。4月以降は、被災家屋でのヘドロかき出しや瓦礫の撤去などの復旧支援を中心に活動するなど、現地のニーズに合った活動を実施してきました。2011年度派遣隊19次、延べ1,943人。

2012年4月からは宮城県山元町を中心に継続的な救援活動を行いました（計12回、延べ823人が参加）。

山元町は発災後半年間立ち入り禁止区域が設定され、一年以上たった2012年春の段階でも瓦礫の撤去や床板はがし、土砂の除去といった活動ニーズが残されていた。

- 20次隊 4月27日～5月1日 40名 宮城県山元町
家屋の片づけ等 8件
- 21次隊 5月25日～28日 17名 宮城県山元町
家屋の片づけ等15件
- 22次隊 6月29日～7月2日 181名 宮城県山元町
家屋の片づけ等14件
- 23次隊 7月13日～17日 25名 宮城県山元町
家屋の片づけ等17件
- 24次隊 8月8日～13日 231名 宮城県東松島市
海岸瓦礫除去、倒壊家屋跡地整備等6件
- 25次隊 9月4日～10日 91名 宮城県山元町
側溝の泥出し、海岸の瓦礫撤去等16件
- 26次隊 10月3日～9日 76名 宮城県山元町
側溝の泥出し、床下の泥かき等18件
- 27次隊 11月2日～5日 17名 宮城県山元町
家財の運び入れ等5件
- 28次隊 11月23日～25日 11名 宮城県気仙沼市
植林用苗の採取、海岸の瓦礫撤去等3件
- 29次隊 2013年1月26日～27日 4名 宮城県山元町
仮設住宅訪問、たたみ上げ等2件
- 30次隊 2月21日～2月24日 11名 宮城県山元町
仮設住宅訪問、天井板はがし、移動図書館の設置等5件
- 31次隊 3月7日～12日 119名 宮城県気仙沼市
気仙沼市合同慰霊祭、地福寺慰霊祭運営等7件

【課題・今後の方向性】復旧から復興に移り行く東北の支援は、地域おこし・まちづくりといった視点が必要となる。地域のニーズにこたえながら、地域に眠っている資源やアイデアと学生の感性とパワーを合わせた新しいまちづくり、ひとづくりを目指して活動を継続していく。



大規模災害時における災害時要援護者の避難支援に関する調査研究事業

2007年度から行っていた調査研究事業は、2期目3年目をもち終了しました。

この調査研究事業では、自治体、関係機関、地域支援者、災害時要援護者本人・家族、地域住民等を個別に調査し、個人情報保護法の高い壁を実感しながら、本人はもちろん周辺の支援者が必要とする個別支援カード（ひまわりカード）とGISソフトを活用した避難支援マップを作成しました。

これは、個人の状態や緊急連絡先といった情報を記載するカードと、特定条件における推奨避難ルートや支援者と災害時要援護者の位置関係などを反映させた支援マップを配布し「地域を知る」「自分を知る」「お互いを知る」という効果が地域に生まれていくことを促す支援プランです。

要援護者が住んでいる地域特性や個々のおかれている環境や状態によって避難支援は千差万別であり、災害時要援護者の周辺にいる多くの人々に、このカードの存在を認知させることで、地域の防災力の向上に繋がればと考えています。



5. その他の事業

「国際協力」「環境保護」「地域活性化」「災害救援」の4分野の他にも、様々な活動を行っています。

SAT(Social Action Training)～大学生のための 社会貢献講座

第27回 「夢実現への第一歩! 好きを仕事に!」

【講師】勝木美陽氏 ※講師の方の要望により、企業名や個人名などの公表は禁止

【日時】5月29日(火)18:00~22:00 【参加者】139名

第28回 「問題解決のためのNPO企業(教育編)」

【ゲスト講師】松田悠介氏(NPO法人Teach For JAPAN代表)

【日時】6月18日(月)18:00~22:00 【参加者】64名

第29回 「新たな価値を生み出し、提供するという事」

【講師】吉村紘一氏(宙Solaプロデューサー/マーケティングプランナー/コピーライター)

【日時】7月12日(木)19:00~21:30 【参加者】73名(一般参加者2名含む)

第30回 「被災地復興」

【講師】立花貴氏(合同会社OH!ガッツ 発起人)

【日時】9月24日(月)18:00~22:00 【参加者】54名

第31回 「国家公務員の社会貢献」

【講師】安藤保彦氏(経済産業省/元高知市副市長)

【日時】11月12日(月)18:00~22:00 【参加者】46名

第32回 「幸せの国ブータン」

【講師】白石匡洋氏(独立行政法人 国際協力機構)

【日時】12月10日(月)18:00~22:00 【参加者】44名

【活動内容】講演会、ワークショップ

【参加人数】合計420人

【コーディネーター】風間ゆたか(世田谷区議会議員・IVUSA理事)

【成果】参加者は講演会、ワークショップを通じて、第一線で活躍されている講師から「気づき」「学び」を得ている。また、社会を意識しながら自分の将来像を描くヒントになるといった声もあった。

さらに、運営に携わっている学生は、テーマの設定から講師のポイント調整や当日の運営まで担うことにより、コミュニケーション能力や課題解決能力を向上させ、仕事を進めて行く上での基本的なマインドを学ぶことが出来た。

【課題・今後の方向性】参加者が、社会の変化を敏感に感じ、IVUSAの活動や自分の将来像を描くことが出来るような魅力あるコンテンツ作りを行う。より多くの学生に参加して貰えるように、事前の開催告知や事後の広報などをしっかりと整備する。



厚生労働省主催平成24年度硫黄島戦没者遺骨帰還事業協力

【日時】2012年7月9日～7月17日、8月28日～9月5日、10月2日～10月10日、2013年2月5日～2月14日

【場所】東京都硫黄島

【内容】厚労省主催の戦没者遺骨収集・帰還事業の参加者派遣と公募窓口業務

【人数】会員延べ10名、一般公募受付30名

【成果】戦没者266柱の収容、遺骨帰還事業に新たに38名が携わり、参加会員と一般参加者が時候の挨拶を交わす繋がり

【協力・協賛】主催:厚生労働省、協力:IVUSA

【課題・今後の方向性】厚生労働省の事業が継続する間は協力を継続、会員内にも現代史を考える機会として発信していきたい。



日韓青少年共同ボランティア活動事業協力

【日時】・訪日プログラム：2013年2月11日(月)～2月17日(日)

・訪韓プログラム：2013年2月21日(木)～2月27日(水)

【場所】・訪日プログラム：東京都内、宮城県気仙沼市、岩手県陸前高田市、岩手県一関市

・訪韓プログラム：大韓民国ソウル市、全羅北道鎮安郡

【内容】・東日本大震災の被災時状況説明講座、復興への取り組みについて有識者によるセミナー

- ・岩手県陸前高田市の街区整備など復興支援活動
- ・地域コミュニティをテーマとした日韓学生のディスカッション
- ・大韓民国全羅北道鎮安郡での観光インフラ整備作業
- ・上記活動をととした日韓学生交流

【成果】・日韓56名の学生がセミナーやディスカッションやボランティアなどをととして災害復興や地域活性について意見交換して考える機会を持ち、交流での繋がりを両国のこれからのコミュニティづくりに役立てて行こうという機運

- ・岩手県陸前高田市内約200mの側溝の泥出し
- ・大韓民国全羅北道鎮安郡の約2kmの遊歩道のマーク付け
- ・参加した学生たちの中から自発的にFacebook内に参加者コミュニティが立ち上がり、コミュニケーションや写真の共有が行われている

【協力・協賛】主催:財団法人日韓文化交流基金

企画:株式会社JTB法人東京法人営業池袋支店

協力:特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会

【課題・今後の方向性】・日韓学生が協働してできる事業の開発。内容のジャンルは問わず、地域や社会から必要とされている事業をととして交流が行える企画。

・韓国学生の安定的定着とそのための韓国側組織整備と活動展開。2004年黄土高原植林で実施できたような日中韓3国学生の協働事業など機会の開発。

・交流をととしてチング(親友)となった日韓学生同士を、パートナーとしていくような流れや意識付けとその仕掛けや企画。



世田谷区市民活動支援コーナー管理運営受託

【日時】 通年

【場所】 世田谷区三軒茶屋キャロットタワー 3階

【内容】 主に世田谷区内で活動している市民活動団体へ、打ち合わせや講義に使えるスペースの貸出や印刷機材の貸し出し等の施設運営。

【成果】 ・延べ3,200件、21,600人の利用、61団体の新規利用登録申込があった。

・支援コーナー運営外に行っている市民活動相談事業では14団体からNPO関連や団体運営設立などの相談がありアドバイス・サポートを行った。

【協力・協賛】 なし



学生お助けボランティア

【日時】 通年

【場所】 世田谷区内

【参加人数】 13名

【内容】 草取り、窓拭き、部屋の片付け、庭木の剪定、パソコン教室、模様替えなど。

【成果】 93件のニーズに対して活動を実施。依頼者（高齢者）もスタッフ（学生）も、作業をしながら対話で交流を深めた。利用者にはリピーターが多く見られ、特定の学生を指名して希望するなど、依頼者と学生間の信用も出来ている。

【課題・今後の方向性】 突発的な依頼に対して即時派遣することが難しく、学生ボランティアスタッフの育成に取り組みつつ、ニーズに対して、責任ある活動を行っていく。

おだわらツデーマーチ2012

ライフセービング活動

【日時】 2012年11月16日～19日

【場所】 神奈川県小田原市

【参加者数】 22名

【活動内容】 1万人が参加するウォーキングイベントの救護補助活動。小田原周辺コース6、10、20、30kmと箱根コース20kmがあり、ルート上のポイントや一緒にコースを歩きながら安全管理と救護補助活動を行う。

【成果】 例年、小田原市役所、小田原日赤から依頼を受けており、評価を頂いている。

【課題・今後の方向性】 CMT講習のインストラクターを中心に派遣しているが、今後は安全管理や救護に対する意識の向上といった、相手を思いやる心を醸成するための活動としても位置付けられるよう行っていきたい。

留学生との交流事業

【日時】 6月20日、9月14日、3月15日

【場所】 横浜国際教育大学、横浜市内、青山国際教育学院、日本経済大学

【参加者数】 46名

【活動内容】 外国人留学生との交流イベントの実施

【協力・協賛】 青山国際教育学院、横浜国際教育大学、日本経済大学



【主催】 小田原市、小田原市教育委員会、箱根町、箱根町教育委員会、真鶴町、真鶴町教育委員会、湯河原町、湯河原町教育委員会、(社)日本ウォーキング協会、朝日新聞社

【共催】 神奈川県ウォーキング協会

【協力】 小田原市赤十字奉仕団救護部、ライフセービング赤十字奉仕団

東日本大震災被災地へのスクールカウンセラー派遣事業（文科省委託事業）

【日時】2012年11月20日～22日

【場所】宮城県気仙沼市気仙沼市立大島小学校

【参加者数】講師派遣:5名、受講生徒:78名

【活動内容】被災地域の小学校での授業の実施

【成果】78名の被災児童生徒の心のケアをしつつ、彼らが将来の夢や目標を持ち、将来に向かって取り組んでいけるような教育的支援を行うことができた。

【課題・今後の方向性】2012年度は、現地の状況もあり1校1度の実施となったが、今後も被災地域に必要とされる事業として、展開していきたい。

【委託元】文部科学省



コミュニティFM向けラジオ番組「大学生が防災ラジオ、始めました」配信

【日時】2012年9月より週1回配信

【参加人数】7名

【内容】大学生の視点で、防災の必要性や被災地の現状などを週一回30分のラジオ番組で発信。

【成果】・合計40局のコミュニティFM局*で放送している。
・運営する大学生が週1回の番組を放送する中で、マネジメント能力や情報発信力を身に付けることができた。

【課題・今後の方向性】ラジオ番組の制作だけでなく、他の団体や企業とのコラボなどを進めていきたい。

【協力・協賛】平成ええじゃないかプロジェクト、株式会社ジェイクランプ、有限会社ファンサイト



*放送局一覧

北海道札幌市 ラジオカロスサッポロ、北海道名寄市 AIRてっし、北海道根室市 FMねむろ、北海道室蘭市 FMびゅー、北海道恵庭市 e-niwa（いーにわ）FM77.8、北海道富良野市 ラジオふらの、青森県むつ市 FM AZUR、秋田県湯沢市 FMゆーとびあ、岩手県花巻市 FM ONE、岩手県大船渡市 FMねまらいん、宮城県塩竈市 BAY-WAVE、宮城県石巻市 ラジオ石巻、宮城県岩沼市 FMいわぬま、山形県米沢市 エフエムNCVおきたまGO!、福島県喜多方市 KITAKATA CITY FM、福島県いわき市 SEA WAVE FMいわき、福島県本宮市 FMもっとこむ、福島県南相馬市 南相馬ひばりエフエム、福島県相馬市 そうまさいがいエフエム、茨城県筑波市 ラヂおつくば、新潟県新発田市 エフエムしばた、新潟県十日町 エフエムとおかまち、富山県射水市 エフエムいみず、富山県砺波市 エフエムとなみ、群馬県沼田市 FM OZE、群馬県伊勢崎市 いせさきFM、東京都葛飾区 かつしかFM、神奈川県大和市 FMやまと、静岡県伊東市 伊豆伊東なぎさステーション、岐阜県高山市 Hits FM、滋賀県草津市 えふえむ草津、兵庫県豊岡市 FMジャングル、兵庫県姫路市 FM "GENKI"、和歌山県有田郡湯浅町 FMマザーシップ、島根県出雲市 FMいずも、山口県萩市 エフエム萩（FM NANAKO）、佐賀県佐賀市 えびすFM、佐賀県唐津市 FMからつ、長崎県諫早市 レインボーFM、長崎県壱岐市 壱岐エフエム

6. 研修

IVUSAでは活動に参加する前に、活動現場に出るために必要なマインドセット（心構え）とスキルを学ぶために研修を行っています。また、自己理解を深めるためのワークショップや就職活動支援プログラムなども行っており、IVUSAでの活動と大学での勉強がリンクするようなサポートをしています。

具体的にCMT（Crisis Management Training 危機対応講習）、HRT（Human Relations Training 自己理解・他者理解・コミュニケーション講習）、SRT（Society Reflect Training 社会理解講習）の3つに大別されます。

CMT（危機対応講習）

●初級講座

【日時】4/11、4/17×3会場、4/18×2会場、4/19×3会場、4/20、4/22、4/24×2会場、4/25×2会場、4/27、5/3、5/19、5/26、5/27、6/2×2会場、6/3×2会場、6/9、6/10、6/17、6/23、6/24、6/30、7/1、7/7、7/14×2回、7/15×2回、7/16×2回、8/5、8/6、8/8、8/21、8/22、8/30、10/6、10/11、10/14、11/15、11/16、11/17、11/23、12/2、12/11、1/19×2会場、2/3、2/10、2/19、3/3、3/6（合計59回開催）。

【場所】各大学クラブ内施設、教室等

【受講者数】合計1,061名。

●中級講座

【日時】5/26、5/27、6/2、6/3、6/23、6/24、6/30、7/1、7/14、7/15、7/22、10/20、10/27、10/28、12/1、12/2、12/9、2/2（合計18回開催）

【場所】各大学クラブ内施設、教室、合宿施設

【受講者数】合計313名

●上級講座

第1回 2012年6月9日～10日 滋賀県東近江市「木地師やまの子の家」

第2回 2012年12月1日～2日 京都府宇治市「アクトパル宇治」

第3回 2012年12月8日～9日 神奈川県川崎市「公益社団法人九段 尽性園」

【受講者数】59名

●インストラクター講座

2013年3月27日～30日 国土館大学柴田会館

インストラクター合格者:6名、アシスタント:8名

HRT（総合的コミュニケーション講習）

【日時】新入生向け講習・継続会員向け講習（各前期後期）、年間合計58回開催。

【場所】各大学クラブ内施設、教室等

【成果】受講者数延べ1,336人

【課題・今後の方向性】より効果的にコミュニケーション能力を向上できるよう、受講後のフィードバックを参考にして改善を図っていく。



SAT（社会理解講習）

【日時】通年

【場所】各大学クラブ内施設、教室等

【内容】新入生向け、スタッフ会員向け講習、プロジェクト前の国際協力・環境保護・地域活性化等の分野別講習など

【成果】受講者数延べ380人

【課題・今後の方向性】学生のインストラクターが実施できるような体制を整えていく。

就職活動支援講座

【日時】関東:2012年11月3日～4日、2013年1月5日～6日、3月2日～3日

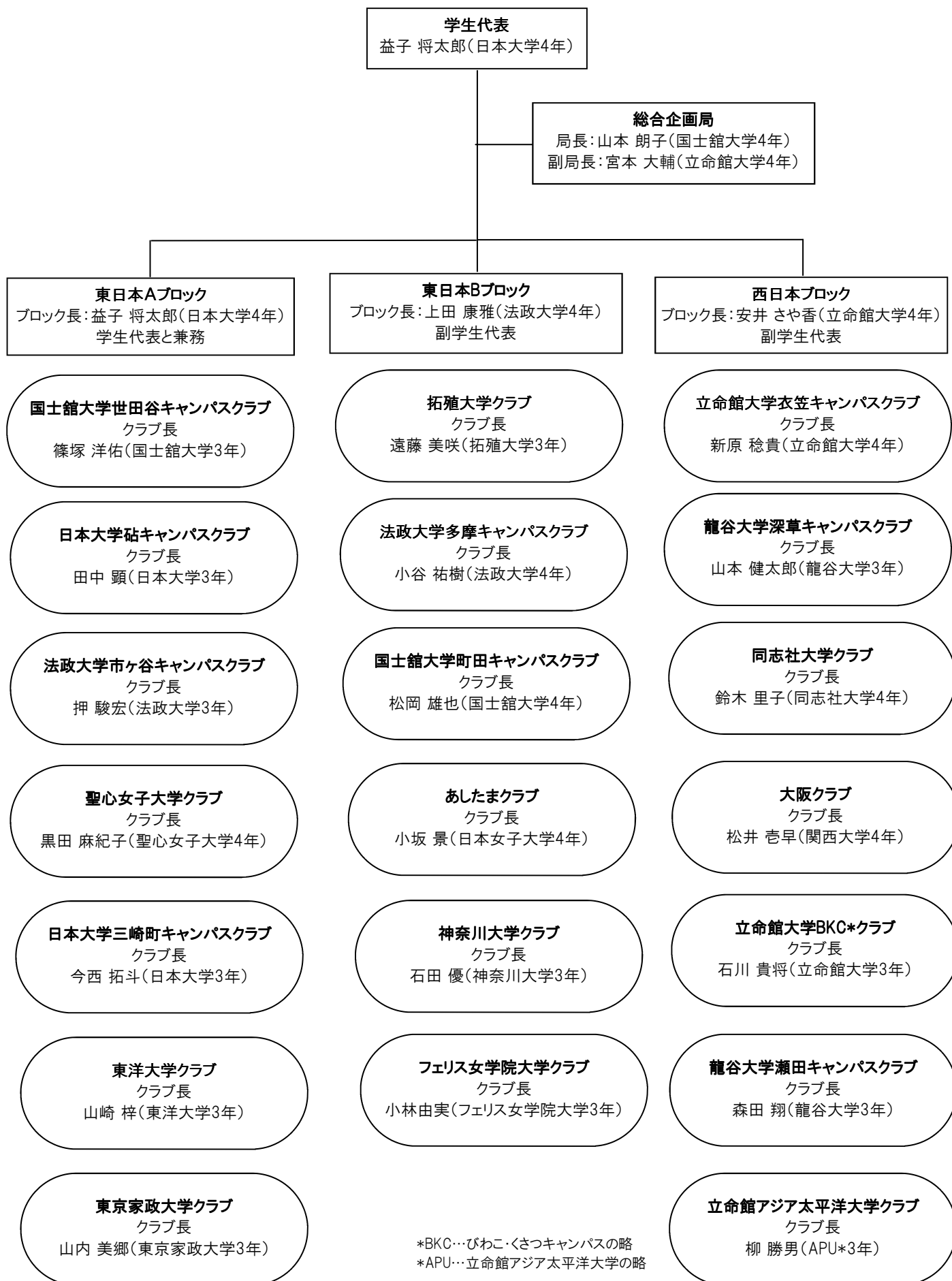
関西:2012年9月29日～30日、12月8日～9日、2013年2月7日～8日

【場所】関東:公益社団法人九段 尽性園（神奈川県川崎市）、関西:京都事務所

【受講者数】15人

【協力・協賛】岡本 浩和氏（株式会社オーパス・スリー代表取締役）

7. 2012年度組織図・クラブ



IVUSAが行う事業の目的と責任の所在を明確化し、全体のスケジュール調整や進捗管理を行うとともに、組織の効率化と組織力の向上を図ります。

総合企画局

局長: 山本 朗子(国土館大学4年)
副局長: 宮本 大輔(立命館大学4年)

会員セクション

セクション長: 筒木 愛美(東洋大学4年)
サブ: 上堂 由貴(立命館大学4年)

クラブの円滑な運営をサポートし、クラブや会員一人ひとりのニーズやアイデアを吸い上げてIVUSA全体の方針決定に活かします。

東日本Aブロック担当: 筒木 愛美(東洋大学4年)
東日本Bブロック担当: 入 大輝(国土館大学4年)
西日本ブロック担当: 上堂 由貴(立命館大学4年)
遠隔地会員担当: 大川原 円香(文京学院大学4年)
松尾 絵里(立命館大学4年)

事業セクション

セクション長: 石丸 実季(フェリス女学院大学4年)
サブ: 横田 直也(立命館大学4年)

対社会向けの事業を実施し、社会の問題解決を目指すとともに、新規事業の開発も行います。

■ロジスティックス*

江原 翔太(国土館大学4年)
尾池 祐亮(立命館大学3年)

■広報

飯山 純平(国土館大学4年)
北迫 奈津美(立命館大学3年)

■ファンドレイジング*

吉田 有里(法政大学3年)
井尻 千尋(立命館大学3年)

■募金チーム

林 慶彦(立命館大学3年)

■新潟県長岡市栃尾地区ふるさとづくりチーム

久住 園子(中央大学4年)

■新潟県十日町チーム

皆川 拓也(東洋大学4年)

■九十九里チーム

石丸 実季(フェリス女学院大学4年)

■SAT (Social Action Team)チーム

高木 裕美(フェリス女学院大学3年)

■里山チーム

本吉 航(立命館大学3年)

人材育成セクション

セクション長: 生田目 有美(法政大学3年)
サブ: 安東 健太(同志社大学4年)

活動を通して、社会人として必要なスキルやマインドセット(心構え)を身に付けられるように各種研修を実施します。

CMI*担当: 杉山 穂高(国土館大学4年)
原山 瞳(立命館大学4年)

*ロジスティックス

活動先で必要な資機材の管理、輸送、参加者への食事を提供する調理、宿泊場所の調整などを指します。もともとは軍事用語で、「兵站」を意味します。
現場で活動するには、前提として「移・食・住」をどう確保するかが大切であり、その部分を担います。

*ファンドレイジング

資金調達のこと。プロジェクトを行うための助成金の申請や企業協賛の営業などを行います。
お金だけでなく、飲み物や衣類などの寄付(インカインド・ドネーション)の協力依頼もします。

*CMI

Crisis Management Institute=危機対応研究所の略。IVUSAがこれまで1,000以上の事業の現場で培ったリスク分析とその対応のためのノウハウをIVUSA会員や一般向けに啓発していくことを目的に2007年に設立。主にCMT(Crisis Management Training=危機対応講習)を実施している。(詳しくは23ページ)

2012年度会員所属大学一覧

国士舘大学、立命舘大学、東洋大学、日本大学、法政大学、拓殖大学、龍谷大学、神奈川大学、同志社大学、聖心女子大学、フェリス女学院大学、関西大学、中央大学、東京家政大学、立命舘アジア太平洋大学、文京学院大学、日本女子大学、玉川大学、明治大学、共立女子大学、実践女子大学、専修大学、滋賀大学、京都外国語大学、同志社女子大学、大妻女子大学、青山学院大学、創価大学、津田塾大学、共立女子短期大学、成城大学、帝京大学、東海大学、明治学院大学、学習院大学、京都産業大学、国立音楽大学、昭和女子大学、成蹊大学、清泉女子大学、東京理科大学、東洋英和女学院大学、ヤマザキ学園大学、宇都宮大学、横浜市立大学、京都女子大学、京都大学、京都文教大学、金沢大学、駒澤大学、慶応義塾大学、甲南女子大学、国際武道大学、十文字学園女子大学、淑徳大学、上智大学、新潟工科大学、新潟産業大学、神戸大学、椋山女学園大学、青山学院女子短期大学、跡見学園女子大学、相模女子大学、大阪大学、大阪府立大学、帝京平成大学、東京医科大学、東京医療保健大学、東京学芸大学、東京国際大学、東京女学館大学、東京女子大学、日本経済大学、梅花女子大学、白百合女子大学、武庫川女子大学、武蔵野美術大学、文教大学、明治国際医療大学、明治薬科大学、目白大学、立教大学、流通経済大学、和光大学、國學院大學（以上85大学108キャンパス）

定例会・合宿など

定例会

関東・関西のそれぞれの情報共有や、クラブの垣根を越えた会員間コミュニケーションと研修を目的に行われます。次のページに出てくる総合企画局が中心に、東日本・西日本それぞれの学生会員により企画されます。

【日時】

関東：6月17日、7月29日、10月20日、10月21日、2月19日

関西：5月27日、6月23日、8月4日、9月22日、11月17日、2月3日

【場所】東京都内/京都・滋賀内の大学施設

【参加者数】関東：延べ801名、関西：延べ855名



合宿

【日時】2012年6月2日～3日、6月9日～10日、12月26日～27日、2013年3月24日～26日

【場所】大阪府立少年自然の家、滋賀県東近江市木地師山の子の家、国士舘大学、国立中央青少年交流の家

【参加者数】559名

【活動内容】各種研修の実施、IVUSAの組織運営に関するディスカッション、交流会など



20期終了式

関西

【日時】2013年3月16日(土)

【場所】エビスビルAAホール（大阪市）

【参加人数】220名

関東

【日時】2013年3月17日(日)

【場所】SYDホール（渋谷区）

【参加人数】150名



2012年度収支決算

収入の部

(単位：円)

科目	金額
会費収入	
学生会員会費	21,790,000
賛助会員会費	199,000
OB・OG会員会費	573,000
法人会費	80,000
事業収入	
発展途上国や、貧困に苦しむ地域での住宅建設、小学校建設、井戸や家畜小屋など諸施設建設に関する国際貢献事業収入（カンボジア学校建設・インド住宅建設など）	9,665,638
砂漠化の進む地域や緑化推進地域での植林・森林保護に関する環境保護事業収入（中国緑化プロジェクト、里山保全活動など）	3,310,572
被災地への人数派遣による復興支援活動の実施、災害に備えた各種研修講習会の開催に関する事業収入（東日本大震災救援活動、日韓青少年共同ボランティア事業、危機対応講習など）	10,168,704
都市及び地域の環境美化・清掃活動に関する事業収入（九十九里浜全域清掃大作戦、天草流木撤去活動、多摩川清掃大作戦など）	13,405,486
各企画参加者等に対する勉強会や合宿に関する事業収入（大学生のための社会貢献講座、国際協力ワークショップなど）	2,424,149
各地域で活動を行っているボランティア団体等との連携に関する事業収入（新潟県における地域活性化事業、世田谷区市民活動支援コーナー運営など）	23,813,985
その他本会の目的を達成するために必要な事業収入（戦没者遺骨収集活動、学生お助けボランティアなど）	6,064,740
助成金	
公益財団法人車両競技公益資金記念財団	22,458,000
日中交流緑化基金	24,500,000
JTB法人東京	500,000
三井住友海上火災保険株式会社	200,000
世田谷区	245,800
その他	74,600
業務委託費	
公益財団法人 せたがや文化財団	7,873,528
その他	961,764
寄付金	
一般寄付	3,666,022
募金寄付	1,105,672
雑収入	
利息	8,469
減価償却費	352,226
預り金収入	4,499,642
未払法人税等	70,000
未払消費税等	295,600
当期収入合計	158,306,597
前年度繰越正味財産	34,802,564

支出の部

(単位：円)

科目	金額
事業費	
発展途上国や、貧困に苦しむ地域での住宅建設、小学校建設、井戸や家畜小屋など諸施設建設に関する国際貢献事業費（カンボジア学校建設・インド住宅建設など）	18,787,914
砂漠化の進む地域や緑化推進地域での植林・森林保護に関する環境保護事業費（中国緑化プロジェクト、里山保全活動など）	21,389,925
被災地への人数派遣による復興支援活動の実施、災害に備えた各種研修講習会の開催に関する事業費（東日本大震災救援活動、日韓青少年共同ボランティア事業、危機対応講習など）	31,635,656
都市及び地域の環境美化・清掃活動に関する事業費（九十九里浜全域清掃大作戦、天草流木撤去活動、多摩川清掃大作戦など）	10,522,622
各企画参加者等に対する勉強会や合宿に関する事業費（各大学クラブへのサポート、各種研修、ボランティア保険、大学生のための社会貢献講座、国際協力ワークショップなど）	11,852,842
活動報告会や広報誌の作成に関する事業費（活動報告会、フリーペーパー「Youth-Acty!!」発行、ウェブ管理など）	5,325,017
各地域で活動を行っているボランティア団体等との連携に関する事業費（新潟県における地域活性化事業、世田谷区市民活動支援コーナー運営など）	25,298,336
その他本会の目的を達成するために必要な事業費（戦没者遺骨収集活動、学生お助けボランティアなど）	6,924,208
事業費合計	131,736,520
運営管理費	
給料手当	5,214,690
旅費交通費	469,251
賃借費	5,788,078
水道光熱費	324,461
車両費	1,842,880
支払手数料	1,812,862
消耗品費	1,223,584
図書印刷費	1,274,107
諸会費	160,080
通信費	110,678
会議費	314,168
会合費	149,821
慶弔費	336,251
租税公課	2,974,080
器具備品費	502,071
雑費	142,078
荷造り運搬費	309,323
減価償却費	352,226
雑損失	2,992,869
法人税、住民税及び事業税	535,000
雑費	
運営管理費合計	26,828,558
その他の支出	
前払費用	11,100
未収入金	299,900
車両購入支出	3,173,210
敷金	324,000
預り金支出	4,411,472
その他の支出合計	8,219,682
当期支出合計	166,784,760
当期収支差額	▲ 8,478,163
次年度繰越金	26,324,401

IVUSA Annual Report2012

発行：特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会

〒156-0051 東京都世田谷区宮坂1-34-4 ザ・アゼリアハウスB棟102号室

TEL/FAX:03-6751-2683 E-mail:ivusa-office@ivusa.com

Website: <http://www.ivusa.com>